

インフルエンザ予防接種

■インフルエンザ予防接種の副反応は

予防接種の注射の跡が、赤みを帯びたり、はれたり、痛んだりすることがありますが、通常 2～3 日のうちに治ります。

また、わずかながら熱が出たり、寒気がしたり、頭痛、全身のだるさなどがみられることもありますが、通常 2～3 日のうちに治ります。また、接種後数日から 2 週間以内に発熱、頭痛、けいれん、運動障害、意識障害の症状が現れるなどの報告があります。

非常にまれですが、ショックやじんましん、呼吸困難などがあらわれることがあります。



■接種対象者は

法律で定められたインフルエンザの予防接種の対象者は、満 60 歳以上 65 歳未満で慢性高度心・肺・腎機能等不全の方です。

しかし、接種を受けることの義務はなく、本人が接種を希望する場合に限り接種を行います。接種を希望しない人に、原則として予防接種をすることはありません。

■予防接種を受ける前に

●一般的注意

インフルエンザの予防接種について、その必要性や副反応についてよく理解しましょう。気にかかることやわからないことがあれば、予防接種を受ける前に担当の医師や看護師、保健所などに質問しましょう。十分に納得できない場合には、接種を受けないでください。

予診票は接種をする医師にとって、予防接種の可否を決める大切な情報です。接種を受ける方が責任をもって記入し、正しい情報を接種医に伝えてください。

予防接種を受けることができない人

①明らかに発熱のある人

一般的に、体温が37.5℃以上の場合を指します。

②重篤な急性疾患にかかっていることが明らかな人

急性の病気で薬を飲む必要のあるような人は、その後の病気の変化からわからなくなる可能性もありますので、その日の接種は見合わせるのが原則です。

③インフルエンザワクチンに含まれる成分によって、アナフィラキシーを起こしたことがあることが明らかな人

「アナフィラキシー」というのは通常接種後約30分以内に起こる ひどいアレルギー反応のことです。

発汗、顔が急にはれる、全身にひどいじんましんが出る、吐き気、嘔吐（おうと）、声が出にくい、息が苦しいなどの症状に続き、血圧が下がっていく激しい全身反応です。

④前にインフルエンザの予防接種を受けたとき、2日以内に発熱、発疹（ほっしん）、じんましんなどのアレルギーを思わす異常がみられた人

⑤今までに中耳炎や肺炎などによくかかり、免疫状態を検査して異常を指摘されたことのある人

⑥その他、医師が不適切な状態と判断した場合

上の①～③に入らなくても、健康状態や体質に不安のある人は医師とよく相談してください。

予防接種を受けるに際し、担当医師とよく相談しなくてはならない

①心臓病、腎臓（じんぞう）病、肝臓病や血液、その他慢性の病気で治療を受けている人

②今までにけいれんを起こしたことがある人

③インフルエンザ予防接種の成分または鶏卵、鶏肉、その他の鶏由来のものに対して、アレルギーがあるといわれたことがある人

上の①～③に入らなくても、健康状態や体質に不安のある人は医師とよく相談してください。

※予防接種を受けた後の一般的注意事項

- ①予防接種を受けた後30分間は、急な副反応が起こることがあります。医師（医療機関）とすぐに連絡取れるようにしておきましょう。
- ②インフルエンザワクチンの副反応の多くは24時間以内に出現しますので、特にこの間は体調に注意しましょう。
- ③入浴は差し支えありませんが注射した部位を強くこすることはやめましょう。
- ④接種当日はいつも通りの生活をしてかまいませんが、激しい運